

# 地 歴 公 民 科 学 習 指 導 案

令和3年10月 第5学年 指導者 内山 一樹

1 単元名 第4章 中世社会の成立 5 鎌倉文化

2 学習指導要領上の位置付け

(2) 歴史資料と中世の展望

諸資料を活用し、(1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような技能を身に付けること。

(7) 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(7) 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること。

3 目標

鎌倉時代の文化について、諸資料を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 庶民や武士の活動が活発化し、新仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 (知識及び技能)

イ 鎌倉文化の特徴について、前代の文化と比較し、当時の政治・社会の様子と関連付けながら考察する。 (思考力、判断力、表現力等)

ウ 鎌倉文化に関連した様々な資料を基に、文化が人々に広まった理由を、他者の意見を参考にしながら主体的に追究しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画 ※別紙参照

5 本時の展開（3／3）

(1) ねらい

「新仏教」や「旧仏教」側の僧侶の著書を例示し、その意見をまとめて比較する活動を通して、鎌倉仏教が庶民や武士に広まった理由と、「旧仏教」側が「新仏教」側を批判した原因を考え、「旧仏教」が隆盛だった時代と比較できるようにする。

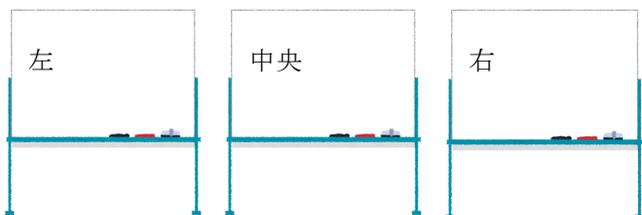
(2) 展開

<p>学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応</p>	<p>時間 ○指導上の留意点 ◎研究上の手立て <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価項目&lt;方法（観点）&gt;</span> 〔記〕記録に残す評価</p>
<p>1 本時のめあてをつかむ。 ○単元のめあてを確認する。 ○鎌倉仏教の概要を整理する。 ・新仏教では「選択・専修・易行」の下、武士や庶民に広がりを見せていたな。 ・旧仏教では新仏教側を批判する者や、社会事業に尽力する者がいたな。</p>	<p>5 分 ○本時のめあてを確認し、既習事項を振り返らせる。 ○鎌倉仏教の内容を整理させ、考察するための手ごかりを気付かせる。</p>
<p><span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[めあて] なぜ、「旧仏教」側が「新仏教」側を批判したのだろう。</span></p>	
<p>2 新仏教側と旧仏教側の資料を読んで、双方の意見を考察する。 ・浄土宗では念仏をひたすら唱えることで救われていたな。 ・浄土真宗では悪人でも阿弥陀仏にすがると心を持っていれば救われていたな。 ・曹洞宗ではひたすら坐禅することで救われるのだったな。 ・貧民や病人の救済などの社会事業を積極的に行うのも新仏教の特徴だよ。 ・旧仏教側は、仏教の本質的な考え方が喪失していると批判したのだな。 ・旧仏教側は、新仏教側に鎮護国家思想が無いことも批判していたな。</p>	<p>25 分 ◎歴史的な事象を考察するための AB シート（表計算ソフト）を用いて実態の変化を理解できるようにする。 ○ Before と After は箇条書きでも良いので、とにかく書き出すように伝える。 ○ Before と After を一文にさせる。 ○表計算ソフトに入力させ、友人たちと共有して、自分の文章と比較させる。 ◎共有した友人たちの意見を参考にして、改めて論述し直し、表現力を高めることができるようにする。 ○他者の論述と比較し、改めて自分の論述を確認させる。</p>
<p>3 考察した内容を基にして、当時の時代背景とその後の影響について考察する。 ・今まで仏教は国家仏教として貴族ら一部に受け入れられていたな。 ・新仏教側の「選択・専修・易行」という概念が分かりやすいので、武士や庶民にも仏教が受け入れられたのではないかな。</p>	<p>20 分 ◎「背景→実態→影響」と因果関係の流れをつかんで前の時代の文化や時代背景から比較・考察できるようにする。 ○表計算ソフトに入力させ、友人たちと共有して、自分の文章と比較させる。 ◎共有した友人たちの意見を参考にして、改めて論述することで、表現力を高めることができるようにする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>旧仏教側は急速な新仏教の普及に焦りを感じており、安易な救済方法を提示する新仏教側を批判したのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の論述と比較し、改めて自分の論述を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       鎌倉文化に関連した様々な資料を基に、文化が人々に広まった理由を、他者の意見を参考にしながら、考察し表現している。        &lt; ABシート（思考・判断・表現） &gt; [記]     </div>
4 本時のまとめとして、学習の振り返りを行う。 ○因果関係を考えると歴史の全体像をつかむことができる。 ○文化は、当時の政治、社会、経済を背景にできあがっている。	5 分 ◎振り返りとして、本時の感想を述べさせる。 ○家での振り返りとして、アンケート作成ソフトにも感想を書くように伝える。

## 6 板書計画

○移動式のホワイトボードを3台使用する。



左 めあて「なぜ、「旧仏教」側が新仏教側を批判したのだろう。」 ・プレゼンテーションソフトを投影

Q1 を読んで・・・  
 Q2  
 Q3

中 まとめ  
 新仏教側ではそれぞれの僧侶が「選択・専修・易行」の考えのもと伝統的な仏教の枠組みにとらわれない新たな考えを生み出した。一方旧仏教側は、戒律の重視を掲げ、新仏教側を非難し、南都仏教の復興に一旗揚げた。その結果、当時の芸術全体にその流れが広まり、庶民や武士層に受け入れられていった。

右 ・表計算ソフトを投影

No.	Before	After
5101	○△※・・・	◇□▲・・・
5102		
5103		
5104		
...		

指導計画 地歴公民科 第5学年 単元（題材）名「鎌倉文化」（全3時間計画）

目標	鎌倉時代の文化について、諸資料を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 庶民や武士の活動が活発化し、新仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 (知識及び技能) イ 鎌倉文化の特徴について、前代の文化と比較し、当時の政治・社会の様子と関連付けながら考察する。 (思考力、判断力、表現力等) ウ 鎌倉文化に関連した様々な資料を基に、文化が人々に広まった理由を、他者の意見を参考にしながら主体的に追究しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)		
評価規準	(1) 庶民や武士の活動が活発化し、新仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解している。 (知識・技能) (2) 諸資料を基に、鎌倉文化の特徴について、前代の文化と比較し、当時の政治・社会の様子と関連付けながら考察している。 (思考力・判断力・表現力) (3) 鎌倉文化に関連した様々な資料を基に、文化が人々に広まった理由を、他者の意見を参考にしながら主体的に追究しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)		
過程	時間	○ねらい 〇めあて	・振り返り（意識） ・評価項目 <方法（観点）> [記] 記録に残す評価
つかむ	1	○鎌倉時代の政治や社会、外交の様子を想起させ、鎌倉文化が普及した理由を追究する意欲をもてるようにする。 どうして鎌倉文化は庶民や武士に普及したのだろうか。	・庶民、武士層の素朴で質実な気風が鎌倉仏教の思想と合致したからではないか。 ・東アジアの情勢変化によって、僧侶の来日・思想の移入につながったからではないか。 ・武士の気風が、建築や文学に及んでいったのではないか。 【単元を貫く問い】 鎌倉文化が庶民や武士に広まった理由は何だろう。
追究する	2	○僧侶の著書や文学の特性、建築物の写真などを基に鎌倉文化の特徴をまとめ、僧侶の活動によって庶民や武士を中心に鎌倉や京都などに文化が波及していくことを理解させる。 鎌倉文化はどのように庶民や武士に普及していったのだろうか。	・「選択・専修・易行」によって庶民や武士に仏教が広まったことで、建築や文学などの文化を受け入れることができたことが分かった。 ・資料や図説を見ながら、前代の文化と比較し、当時の政治・社会の様子と関連付けながら文化が普及していくことを理解している。 (記述・発言(1))
まとめる	3 本時	○鎌倉仏教を担った僧侶に関する史料について考察する活動を通して、新仏教が庶民や武士などに普及していった影響を考え、歴史的事象の因果関係を考察し、表現できるようにする。 どのような因果関係から、新仏教が庶民や武士に普及したのだろうか。	・新仏教側ではそれぞれの僧侶が「選択・専修・易行」の考えの下で伝統的な仏教の枠組みにとらわれない新たな考えを生み出した。一方旧仏教側は、戒律の重視を掲げ、新仏教側を非難し、南都仏教の復興に一旗揚げた。その結果、当時の芸術全体にその流れが広まり、庶民や武士層に受け入れられていった。 ・新仏教が庶民や武士などに普及していった影響を考え、歴史的事象の因果関係から普及したのかを考察し、表現している。 (ABシート・発言(2)) [記]